武道白石英 前八篇

へ13
3370
1

門 へ 13
3370
1

茶羅蔵

武道白石英巻之壹

元禄十年八月廿九
本大學出版部

元金山之事 附稲荷冨右門出雲の国
岩屋蒙安国中の
仙人の法 松平陰山孫
同国石の橋 所金山
中略 元和 十一万石
到仙の家 中略 平で

目もくらくらとして伊達の程なくその家
にんよ稲富を始とする武士共八
稲富大学のくして大将の陣のそんぞく八
仁義なしの先をくして軍切まろう
成大学をそ所人舎のとくをくして軍
忠もう是をくれ武士ろう多をと
領しく書状を義もうの男子二人
ある婦るいとつをくして文義の道を

出さざくして涙くくれ義を正しく生涯
ちくる者有りんを見年れをまして
毒物もうの其ほれ仁義のたる
ぐりりくぐ又りくしとこのを
強力を奴りて刃のようにて年
もう其活大家の近国を松浦殿
堂中大力此士あるうは是る刃のまでの情
らんを伊達家の譜をろく

たるまぜ小さきぶたを
きくるまのようにて
さそなかなかして中みん
指九象のさるをもつる
ゝ初めてぶゝ
麻ごうよりもはるかに
強き軍中ようし
高ぐ山樹ぐん
ゝ
ゝ中外ゝ
ゝ
ゝ

紙体偽そうな山ぎるとて
あるくと いるまりまてで 右ん て小と
岩くく きらば 山ぎるとおしみる
けるは きせぐまるは 待まるべし 和し
事てて十ぐ義事ぐはあぐきみ
す事 ぐんぐ 山角ひぐきたる
ぐとして 小ぐ殿 ぐて右ん
力量 ぐ見ぎれぎ 事くとて

物まも義ものて事せ見る問よ
右ん きまを右まるはをうけゆまて
て事 右まるは 人海くにくるの
前へ出 ぐて ぐてこのる事を
てコイト声をうけて山のまるう
物 ぐけまぐ日るうみげけほまて
波石地 動ぐさて出ぐ出ぐう
小ぐて殿 思ぐ声をのまるて事

[illegible]
[illegible]
角を引あげ[illegible]
[illegible]
[illegible]

この御屋敷は屋中へと大久保感嘆して
ぞ吹聴する父を始め此度は長崎にもはし
のぶしまくと本川門と唱へ前
乃首尾こそくいなのくさてそこをさ
親戚を待遇力しかと勇ましくぐ
義生きまくさ生くぐ已ご勇猛な
ほこるくを稽古なるこのくさ
時乃石をごとくの事

たくぶ生れを再度
じさいのくいを抜もの設けくの
るくさくぎつくはくるくを全くての
てを抜くくこを方ごこを事ぬ自侍くう
事ねくうくを嫁くを傾城古来を
打越しての仕業はくこくを
生くものくくくを彩くく稽古な
きはくて戦争をつのくのやもちまくれん

たつ者は文学より起る文学より起る
源く信く後漢書に見えたり
其ゆへ人のうと云
うゝだ向信はきつ性にふらく
いつまでも人の性を
改きべし言葉はと改たる
言葉は性と高家よりたつ
はたとふる古後漢書風よ

はたをうとい事なる人道よ
信をいはゞ風はれら
とふを知る言るべうだ見れち
文がすと云と新戒しれば
はたを和漢して性を改めた
人へ知れしだ生ふ風はよ
言葉を使て改を
いへでやと知れ言はしば言へ

文ら親類を色々中上申れど
小牛ゟ屋はくくしと為ひて大よ
感じ給へ子を云ふ文よりそ
そして主張ら親類初めの極なる文
又たうるくたうと人金言云屋ゟ
とて改名とゆるされ言葉打ちつが書
ひやそれよりあるとそこ
陸奥ち稲ち逃ま序出ま事と変

去御よ稲宮を脇を長狭を手れそる
ゟうおしいくゟ親るひのそしら強よ
を長れ須ゟ文そうゟ忠ま（みま強乃
たそれ大ゟたくそ者りる海ら押
ゟうゟ文十口め忘ともそれ乃ん去つを
家ゟおを遠たくゟ法ゟを黄氏強よ
文の屋ゟたゟ文を折ま墓つ十人
持ちと言よ歩ゟ百ま絵ゟとと下

されば生涯むつまじく相愛
慶長年間伊勢の古市に沸き騒ぐ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

序よ大ちの孫ゆ八寿や
尚家のむよ言葉ちうぐと人形
強力の士ひうちしゅ今日の地走り
ゆのとぐと力量の国ぐ久つ人物とも
ぐ度ちし作まうちゆ小ぶ部級
者ぐちさ仕人いちぐ第少よ
ちの紙の美は今のおを上経彼名
夏孫よ叶し仕人ちの自ん作者

ら生ち紙仕人ちと上ち部
中ちを生ち平生新のしめつまれ
御家おられぐつぐと出絶を減よ
男姿ちとち骨格ちとて力乃極物ひ
極生ちちの御ちハハトぐちよ
れち年伏して居られぐ文法魅よ
なんぐ殺ち部を有ち生ぐ形生つぐド
ちく御家よひうち喜ち盤と川

寄せ玄蕃よりかぶとを
ぬぎとりつゝ
ゆるひざぐんのよく
のせ所角を所をつゝきもうる
ぐるを十ぐんまもうよりねらしつ
ゝ玄蕃玄川とさゝを
年仕て大守掠ちよりは厨ゝ芋
しよ城る強力うちよ小十年玄蕃よい
社家和をとゝれなりとの沖玄蕃

強田ゝ水中ゝ
強力ゝ蕃ゝ中ゝの沖刻
佐い佐蕃家中一の強力松茶強力
佐ゝ中人合ゝさいゝひ強力
佐ゝゝゝれゝゝ所ゝ
ゝ掠ぐんゝいゝ
ゝつゝ強力をゝ
時佐六十ぢゝ

寺は八葉山にあり水そんの寺とも名
称せり中ごろは八年ばかり
ゑ暗くなりしかども
ゆゑ事なり白きさうの足の
ものよりくわのびて中ぐくともあ
まりとあるは大きに極はなはだ
力のゑ下海もぐるまで人口の奥
なりしの所をゑ極せるなれ

ばかりの目をあけの水神にて
くいりんとの所をゑ少し殿
更くとなりかれぬ析をつくして
四間よりを手水神とゑるなく
是は神にて横六尺半の大石をと
もし自殿よりのこりて永淵の所よ
所をとりて所をとりて掘くひさきし
中よりの者七八百も見紀なる

はるばるんの主へまれる金白河より手紙
者共へ渡し申して相くさぐ
ろうのあるかしさよ元へわさ
いを来よえの和らん金をよりて宝
たくしんと猫をして歩をを越よ
ろうをうちわれたつぐあり川へ金ひさ
あぎゆえのそくへとわへ金して
主のさられぞ沖家へ人を

一度よりもつと感堂へ行孫法の
印よは新をりて渡へ和よ出を下
されは昭ぐしをもしるる次よれ主
をは家へよれ是よは出昭ぐしし
金をられバ汗金しも波号寺よ
出金ろしれをよと和よで寛和
和極ろう鍋を出合と中へられさで
渡へ和ようちの印へられる八生屋

ごとくにいの法師を
とりたてゝ
なりけるとぞ
申す酒はきらせ
給はぬ
御武辺は思召
よりほかの
ものにて
ましゝかば
ものゝ節ひま
なくうち
ゆきて
ものゝ
ふ人
なれば
物ゝ
ものゝ
ぐ
ものゝ
ぐ
ものゝ
ぐ

たる御掃部頭殿の白石を洗ふ
所為にて城内にて押つぶして
みれば数
多の稚子なりしが成長して
あしつれ
種よりの白髪なりしが
のものの
女性
せうの

有馬ゑんぐに折ゑ鳥つぶ紙袋まつ
くゝ紙ゑんの袴をとぐすりのこりだ
又ゑん重れ子ゑの法報い宮なゝ乞
す水魚の恩をしてゑんに忠義を
はたらるゑんぐにとの法報州ちんで
ゑんまるべきやもめくゝ古報なるきくゝ
見るゝて有馬ゑんぐに家まくゝゑ拾る
まきつくすくゝ折ゑつよ家どくを

渡くゝ陣屋の正ゑうゝ必くゝそゑつの
ゑゝ見ゑ浦ハべくゝにて母の報よ
蔵紙なくまゝゑう折ゑつを巻ゑる事
るのでくゝ折ゑつも法報を又の
ゑくゝ宮よ水魚の口ひとゑゝとゝ
ども母れゑゝ法報ゑ折ゑつぶ
家くゝゑもゑくんとゑゝ門げ
一ゑよ紙くゝハゑゑ毒茶などと

用ん[illegible]の立て[illegible]国郡の者より国[illegible]
あるまる程きれば[illegible]門ハ行のよ村ぜん
せだ和んあひ深く[illegible]ぬ事を
[illegible]べ[illegible]多[illegible]
杉をつと寄よ[illegible]有[illegible]
なげうさ沒[illegible]
知る通多病うして長命ハ[illegible]
[illegible]

家とつぎ[illegible]たらハ母のあく
[illegible]和のつ[illegible]止ぬべ[illegible]
[illegible]杉病さ[illegible]沒命の
程おぼつ[illegible]よ信く[illegible]
有者[illegible]と[illegible]
[illegible]で語り[illegible]杉[illegible]
見ゝの部[illegible]洞[illegible]
[illegible]ハ和[illegible]

多帝よりいとも古代の思ふさまにて
いとゆゑ深くおもしろく侍りしかば
うち侍りて南の家を継ぎ給ふ
と思ひしかども毎年の女房の
年事侍りと考へをつくりて侍る
きさいさのくされば毎年
年貢たてまつる代の事を
侍りし　よくは帝の きさいも
なりぬ　捨てきていつるひき出
年をたてまつりて義をつ
毎年よりしかも侍りて合て
のいとりくぎれば古つせんをく
家ぬけたりとやうる侍りて
つくづくと思ひ出でたる
右のそくじ年をさ出
とのくさいをたまへ

たゝ〻ば遠方の事も此ごとく一
門中をうけとるゝ古門書のことと
元相ゝ水を一向ゝ[illegible]ぜざる事
帝の此方書如ことゝ[illegible]ば事わきう
ゝ水ば家ゝ事をひとゝ[illegible]文[illegible]
望ゝ今点せざれば諸方つきて[illegible]
ひとを宮めゝ[illegible]えば陪[illegible]
此方を退よとゝ[illegible]ひと又一つゝハ

我ゝ諸ゝの[illegible]ゝ[illegible]
他ゝに年月をおるゝうちよりんご
[illegible]も毋の[illegible]を自悲とゝつゝ
中[illegible]と思ひ宮つれば[illegible]の
常ゝ此方見ゝ[illegible]れ事を
ゝ[illegible]ゝて叶ゝまじとひとゝ
旅ゝの用ゝとゝ事の内
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

武道の名誉は此巻に盡

他事ハ古歌の
和歌みなり
此巻ハ
ひる